

建設業の給与総額2.7%増

厚労省 確報値 22年度勤労統計調査

厚生労働省は23日、2022年度（22年4月～23年3月）の毎月勤労統計調査の結果（確報値）を公表し

た。建設業の就業者に支払われた現金給与総額（1人当たり平均）は前年度比2.7%増の43万0931円。

常用雇用労働者総数は1.9%増の274.2万人、月間総実労働時間が0.6%減の163.8時間になった。5人以上が働く事業所を対象に調査した。

建設業の就業者に支払われた平均給与総額のうち、固定給の「所定内給与」は1.4%増の32万5788円、残業手当など「所定外給与」は1.7%減の2万5122円。賞与に当たる「特別に支払われた給与」は10.5%増の8万0021円だった。

建設業の常用雇用労働者の入職率（新たに就職した人の割合）は0.05%上昇の1.26%。離職率は0.03%高い1.21%となった。建設業の月間実労働時間を見ると、総実労働時間のうち、所定内が0.5%減の150.0時間。所定外が1.1%減の13.8時間だった。出勤日数は0.2日少ない20.0日。

建設業を含む全産業を見ると、1人当たりの現金給与総額は1.9%増の32万6308円、常用雇用労働者総数は1.2%増の5156.0万人、月間総実労働時間は0.4%増の136.4時間になった。

